

3-2 災害年表

元号	西歴	事	項
欽明天皇28	667		「郡国大水いでて飢えぬ。或は人相食む。傍郡の穀を運びて以って相救えり。」出雲も水難を免れなかった【日本砂防史】
天武天皇13	686		三瓶山噴火【鳥根県史】
大宝 1	701	10/1	台風【気象災害】
養老	717~728		養老年中の出雲洪水【斐伊川史】
元慶 4	880	10/14	出雲地震【斐伊川史】
天文11	1542	8月	大森町洪水、死者1,300余名【続邑智郡誌】
天文13	1544	8/7	台風【気象災害】
天正 1	1573	8/27	出雲に大洪水あり。石塚村（出雲市大津町）一本松堤防が決壊し、肥の川西流す【斐伊川史】
寛永 3	1626	6月 8/16 8/18 9/12 10/14	霖雨洪水、平地出水3尺余、害穀2万4,430石。【斐伊川史】 大風、害穀3万余石、覆屋4,290余。【斐伊川史】 大風雨水套平地、深者4尺余、溺死2名、害穀5,700余石、覆屋62。【斐伊川史】 又風雨。水套平地3尺余、害穀1万7,080余石、覆屋69。【斐伊川史】 大地震、潰屋130。【斐伊川史】
寛永10	1633	5/28	終日雨降り、殊の外大水出、出雲國中迄破損【斐伊川史】
寛永11	1634		「愚考記」に「堀尾公当国陽州を鎮し…其頃迄は兼川当初の川幅狭は…凡河内20余丁尤…川底低く河中に小石など有之といへり。」「愚考記」に「然に京極若狭守領所の時、免許と聞伝ふとなり、仍て鉄穴より砂流れ河内高くなり…。」【斐伊川史】
寛永12	1635		出雲國に大洪水あり、肥の川東流す【斐伊川史】
寛永16	1639	5/20-21	大水出、肥の川本流東流し穴道湖に注ぐ【斐伊川史】
慶安 3	1650	9/26-28	洪水【気象災害】
承応 2	1653	9/26	洪水【気象災害】
延宝 2	1674	6/25 7/28-8/1	松江城下全く泥海と化し、出雲全部その災被らざる所なし、害穀74,230斛、漂家1,450余戸、湖堤川塚、石壁、水碓等の破壊90,823歩、死者229名、牛馬103頭【斐伊川史】 洪水 死者229名、家屋流失1,450戸、堤防その他損壊多数、減収74,230石【鳥根の気象百年】
元禄 4	1691	5/12 6/5-6	大雨【鳥根県史】 又大雨、天神川水大漲、害穀21,520余石、田圃堤堰損壊者多【鳥根県史】
元禄15	1702	6/27-7/2 8/23 9/18-24	大雨、穴道湖水6尺を増し、船を廃して漂民を救う【鳥根県史】 「武志堤」決壊、又伊丹堂西の土手決壊、竹藪まで一面の湖水【斐伊川史】 台風【気象災害】
正徳 4	1714	8/8	大風雨、平地水深者3尺、浅者1尺、害穀21,580余石、倒屋277戸【鳥根県史】
享保 6	1721	7/12	大風雨、数日不止、城下水深4尺、郡邑2丈5尺、溺者4名、害穀47,130余石、覆屋144戸【鳥根県史】
享保 7	1722	6/23	大風雨あり、類家928戸、死者54名、牛馬20匹、害穀40,169石【斐伊川史】
享保11	1726		秋、豪雨により、飯田の背ヶ国山が大山崩れし、布部川を堰止める【鳥根県既往の災害】
享保14	1729	9/14	大雨洪水あり、害穀18,732石【鳥根県史年表】
享保20	1735	10/5	西北風烈しく迅雷暴雨あり、民家630戸、土蔵100所、仏堂1カ所を顛へし、稻154,896把を漂し、船大小349隻を毀ち水田陸田沙石の害を受く【鳥根県史年表】
元文 1	1736	5/26	浜田大洪水、大橋全部流失、丸の内お座敷へも3尺水あがる【鳥根県史年表】
寛保 3	1743	4/8-20 8/10-20	大雨あり、田を害する36,598石、家を潰す16戸、山を壊る145カ所【鳥根県史年表】 烈風雨あり、土家幾ど倒る87戸、農商家の倒る650戸、山の土石を吐くもの20カ所、樹折れ根覆へる13,000株【鳥根県史年表】
宝歴 5	1755	9/29	台風【気象災害】
宝歴 8	1758	7/16	大雨震雷あり、城市は深さ2~6尺、民家780戸、衝破死者24名、牛6頭、山崩れ7,670カ所、堤の壊れしもの71,300余カ所、橋の墜ちしもの456カ所【鳥根県史年表】
宝暦 9	1759	7/16	出雲國內大雨震雷あり、衝破780戸、圧死者24名、牛6頭、防壊200余り、堤壊71,355カ所。【斐伊川史】

元号	西暦	事	項
天明 2	1782	5/6	洪水襲来、害穀49,444石〔斐伊川史〕
天明 4	1784	6月	洪水襲来、害穀53,740石〔斐伊川史〕
天明 5	1785		洪水、那賀郡三隅村高城山城址、東丸の下方山腹が地すべり〔島根県既往の災害〕
寛政 4	1792	9/11-12	台風〔気象災害〕
文化13	1816	9/24-25	台風〔気象災害〕
文政 8	1825	5/31-6/1	大雨、山崩3,358所、田26,248石余、家87戸〔斐伊川史〕
文政 9	1826	5/31-6/1	淫霖で水漲ざる。出雲国死者130名〔斐伊川史〕
文政11	1828	5/6-8 9/17-19	大雨洪水、山崩3,260所、田45,474石余、家18戸〔島根県史〕 台風〔気象災害〕
天保 7	1836	7/24-25 8/20	台風 死者48名〔気象災害〕 大雨洪水、平地出水二丈三尺、山崩7,005所、死者4名、害穀138,600石。〔島根県史〕
弘化 2	1845	8-7月	洪水、流出家屋5戸、山崩5,877所、橋墜886所、堤壊10,885歩、道壊53,434歩、死者5名。〔島根県史〕
弘化 4	1847	5-6月	甚雨洪水、山崩れ6,970所、壊家1,300戸、堤壊76所、道壊46,987歩〔島根県史〕
安政 1	1854	11/4	本州太平洋海底に起り、北半に地震、津波を起さしめたものは松江市民を戦々兢兢たらしめた〔斐伊川史〕
万延 1	1860	6/8	大雨、前谷川筋水出砂高クナリ、八邊前通迄八土手ヨリ川内砂高クナル、死者2名〔能義郡能義村〕〔島根県既往の災害〕
		6月	大雨有り、来海川及び、福富川出水、意宇郡来海村忌部村被災、死者数名〔斐伊川史〕
慶応 2	1866	7月	矢上村に豪雨、山の中腹にて約3、4尺もあらうか数釘にわたる断層地すべり発生、依て直ちに調査を行へるに、尚も変動は継続し区民は恐れ、諏訪神社に七日七夜の祈禱祭を執行し、満願の日に神木杭（楢）56本を水引にて結び地すべり現場に打ち込みぬ〔邑智郡誌〕
明治 5	1872	2/6	浜田地震発生。死者551名、負傷者574名。焼失家230戸、倒家4,049戸、半倒5,429戸、大破6,734戸。山崩れ6,567カ所、最高隆起5～6尺、最高沈下3.4尺（いずれも海岸部）、地震発生45分前、浜田浦で7、8尺水位低下。〔島根県既往の災害〕
明治 6	1873	8/28-29	出水、明治時代最大規模の災害となり、中でも斐伊川本流の堤防で原形を残すものは稀なる状態を呈す、浸水50日、死者80余名、流失家屋470余戸、浸水家屋4,000戸。〔斐伊川史〕
明治13	1880	1/4	芋原のえき谷に大山崩れ発生。崩壊土砂はえき谷から四枝に分れて流れ、大きいもの長さ76尺、幅13尺、高2丈〔石見匹見町史〕
明治17	1884	7/13 8/25	安濃郡以東の県内大出水〔島根県史〕 台風〔気象災害〕
明治19	1886	9/20-24	斐伊川平水より1丈2尺、赤川は1丈4尺の水漲り、付近堤防決壊〔斐伊川史〕
明治26	1893	10/15	県下で大洪水、家屋流失488棟、家屋建物全壊2,806棟、死者（行方不明者含む）73名、堤防決壊破損3,232カ所、83,336間、山地崩壊3,263カ所〔しまねの砂防〕
明治27	1894	9/10-11	大洪水、斐伊川は平水は1丈高く、赤川は1丈3尺高く、沿岸の被害大、又野川堤防決壊のため木次町全部浸水、県内死者43名、家屋流失2,000余戸〔斐伊川史〕
明治28	1895	7/24-25	台風〔気象災害〕
明治38	1905	8/8-10	台風 死者3名〔気象災害〕
大正 1	1912	9/22-23	台風 日本全土〔気象災害〕
大正 6	1917	9/30-10/1	台風 死者・行方不明者8名。〔気象災害〕
大正 7	1918	9/14	出水あり、道路、堤防橋梁の破壊したもの多数。〔斐伊川史〕
大正 8	1919	7/4 7/15	豪雨、江の川本川筋のやた堰も全部流失したため、今日の石堰堤に改造。〔島根県既往の災害〕 口羽村上田で約4畝、渡尾真山約1畝半、西の上約2畝荒廃に帰した。〔島根県既往の災害〕
大正15	1926	7/22-23	明治19年以來の大洪水となり、赤川増水2丈。〔斐伊川史〕
昭和 9	1934	9/21	室戸台風。死者15名、負傷者14名、家屋全壊14戸、流失11戸。〔しまねの砂防〕
昭和10	1935	9/23-25	洪水。死者・行方不明者4名。〔気象災害〕

元号	西暦	事 項
昭和11	1936	9/10 柿木村に局地的豪雨。山地崩壊、土石流によって死者11名。(柿木村の歴史年表)
昭和12	1937	9/11 台風。死者3名、負傷者6名。家屋全壊8戸、半壊8戸。(鳥根の気象百年)
昭和16	1941	9/30-10/1 台風。行方不明者9名、負傷者2名。家屋全壊9戸、半壊2戸。(鳥根の気象百年)
昭和18	1943	9/19-20 大洪水。県下に被害甚大。死者412名、負傷者241名、家屋全壊1,970戸、半壊3,523戸、流失2,246戸。(しまねの砂防)
昭和19	1944	9/16-17 台風16号。死者・行方不明者9名、負傷者34名。家屋全壊734戸、半壊1,372戸、流失50戸、浸水5,823戸。総被害額7600万円。(鳥根の気象百年)
昭和20	1945	9/17-18 枕崎台風。死者58名、行方不明者21名、負傷者68名。家屋全壊415戸、半壊722戸、流失214戸、床上浸水5,111戸、床下浸水10,896戸。道路195箇所被害。(鳥根の気象百年) 9/20 豪雨により、出雲地方各地で山津波、地すべりあるいはがけ崩れが発生。特に地すべりは近年まれにみる大地すべり。(見田原下組) (乙立史)
昭和21	1946	12/21 早晩の強風は県下にて、大社、平田に被害。(斐伊川史)
昭和23	1948	1月 鱈淵寺川と県道を埋没する規模の地すべり。(日本の砂防)
昭和24	1949	9/17-20 梅雨前線による大雨。死者1名、負傷者6名。家屋全壊3戸、半壊13戸、床上浸水102戸、床下浸水686戸(鳥根の気象百年)
昭和25	1950	9/1-3 ジェーン台風。 9/12-16 キジア台風。家屋全壊4箇所、半壊25箇所、流失6箇所、床上浸水60箇所、床下浸水561箇所。道路73箇所、山崩れ・がけ崩れ20箇所被害。(鳥根の気象百年)
昭和26	1951	10/13-15 ルース台風。死者1名、行方不明者2名、負傷者1名。家屋全壊16戸、半壊128戸、流失2戸、床上浸水109戸、床下浸水463戸。道路82箇所、山崩れ・がけ崩れ35箇所被害。(鳥根の気象百年)
昭和28	1953	6/4-8 台風2号と梅雨前線による大雨。死者1名。家屋全壊1戸、半壊6戸、床下浸水127戸。道路64箇所、山崩れ・がけ崩れ41箇所被害。(鳥根の気象百年) 6/25-29 梅雨前線による大雨。死者3名、負傷者1名。家屋全壊10戸、半壊70戸、浸水237戸。(鳥根の気象百年) 7/21-23 梅雨前線による大雨。死者2名、負傷者3名。家屋全壊2戸、半壊26戸、床上浸水4戸、床下浸水482戸。道路500箇所被害。(鳥根の気象百年)
昭和29	1954	9/26-27 洞爺丸台風。死者・行方不明者25名。(気象災害)
昭和31	1956	8/15-18 台風9号。死者3名、行方不明者1名、負傷者4名。家屋全壊8戸、半壊13戸、床上浸水34戸、床下浸水64戸。(鳥根の気象百年)
昭和33	1958	6/28-7/5 梅雨前線による集中豪雨。浜田市周辺に激甚な被害あり。人的被害171人、家屋被害9,900戸。(しまねの砂防) 7/8-10 梅雨前線による大雨。死者2名、負傷者1名。家屋全壊1戸、半壊5戸、浸水892戸。(鳥根の気象百年)
昭和34	1959	4/3-6 低気圧前線による大雨。出雲市で死者1名、負傷者2名。家屋全壊1箇所。浜田市で山崩れ1箇所。(鳥根の気象百年)
昭和35	1960	7/7-12 梅雨前線による大雨。石見地方の被害額4億4千万円。(鳥根の気象百年)
昭和36	1961	6月下旬-7月上旬 梅雨前線による大雨。死者14名、負傷者13名。家屋全壊31戸、半壊57戸、流失5戸、床上浸水1,586戸、床下浸水8,746戸。道路366箇所、山崩れ・がけ崩れ486箇所被害。(鳥根の気象百年)
昭和38	1963	1月 豪雪。死者33名、負傷者53名。家屋全壊204戸、半壊455戸、一部浸損1,094戸。道路9箇所、雪崩70箇所、山崩れ・がけ崩れ8箇所被害。(鳥根の気象百年) 7/4-5 下古和地すべり発生。すべり土塊20万m ³ 。(鳥根No. 22) 7/10-11 梅雨前線による大雨。軽傷者2名。家屋床上浸水199戸、床下浸水993戸、破損6戸。総被害額2億7400万円。(鳥根の気象百年)
昭和39	1964	7/16-19 梅雨前線豪雨。死者108名、行方不明者2名、重軽傷者398名。住家全壊783戸、流失49戸、半壊946戸、一部浸損2,083棟、床上浸水6,053戸、床下浸水23,099戸。河川4,482箇所、砂防158箇所、道路7,473箇所被害が発生。総被害額258億9千万円、土木関係被害額72億6千万円。(昭和39年7月 豪雨災害状況書) このため本県で初めて特殊緊急砂防事業を実施。
昭和40	1965	7/12-23 梅雨前線豪雨。死者10名、行方不明者1名、重軽傷者520名。住家全壊121戸、流失13戸、半壊1,020戸、一部浸損332棟、床上浸水2,511戸、床下浸水10,730戸。河川17箇所、砂防257箇所、道路4,764箇所被害が発生。総被害額141億8千万円、土木関係被害額46億4千万円。(昭和40年7月 豪雨災害状況書)
昭和41	1966	6/31-7/1 大雨。県西部を中心に住家被害21戸、土木被害28件。(鳥根の気象百年)
昭和42	1967	7/8-10 梅雨前線による大雨。県西部を中心に住家被害225戸、土木関係被害21件。(鳥根の気象百年)

元号	西暦	事	項
昭和44	1969	7/6-8	梅雨前線による大雨。死者 行方不明者3名、負傷者1名。住宅被害353戸、土木関係被害82件。〔島根の気象百年〕
昭和46	1971	7/1	梅雨前線による大雨。県東・中部に被害が発生。死者4名、行方不明者1名、負傷者3名。住家被害2,789戸、土木被害727件。〔島根の気象百年〕
昭和47	1972	6/6-7/18 7/8-15	梅雨前線豪雨、全国一円〔災害便覧〕 東部半島部と伯太方面を除く県下全域に大雨。死者26名、行方不明者2名、重軽傷者79名。住家全壊637戸、半壊1,206戸、流失95戸、破損656棟、床上浸水10,805戸、床下浸水25,291戸。河川4,802箇所、砂防285箇所、道路6,531箇所被害が発生。総被害額850億6千万円、土木関係被害額325億9千万円。〔昭和47年7月豪雨災害誌〕
昭和49	1974	4/1	後野地すべり発生。すべり土塊10万m ³ 。
昭和50	1975	7/13-14	梅雨前線による大雨。死者8名、行方不明者1名、重軽傷者16名。住家全壊26棟、半壊51棟、一部破損61棟；床上浸水655棟、床下浸水2,477棟。河川2,512箇所、砂防180箇所、がけ崩れ154箇所、道路2,536箇所被害が発生。総被害額266億1千万円、公共土木施設被害額124億4千万円。〔災害年報〕
昭和51	1976	8/11 9/8-13	前線による大雨。住家一部破損1棟、床上浸水11棟、床下浸水374棟。河川230箇所、砂防2箇所、道路50箇所被害が発生。総被害額12億円、公共土木施設被害額3億2千万円。〔災害年報〕 台風17号と前線による大雨。軽傷者1名。床上浸水1棟、床下浸水42棟。住家半壊3棟、一部破損19棟。河川581箇所、砂防46箇所、道路595箇所被害が発生。総被害額50億1千万円、公共土木施設被害額25億3千万円。〔災害年報〕
昭和52	1977	5/2 8/8	三瓶山付近で地震が発生。死者1名。住家半壊1棟、一部破損4棟。がけ崩れ1箇所、道路13箇所被害が発生。総被害額7億4千万円。〔災害年報〕 前線による大雨。隠岐を中心に被害。死者2名、軽傷者3名。住家全壊19棟、半壊30棟、一部破損28棟、床上浸水270棟、床下浸水1,526棟。河川1719箇所、砂防31箇所、道路1,488箇所被害が発生。総被害額74億2千万円、公共土木施設被害額37億3千万円。〔災害年報〕
昭和55	1980	8/26-31	前線による大雨。重軽傷者2名。住家全壊2棟、半壊10棟、一部破損77棟、床上浸水59棟、床下浸水1,043棟。河川1,306箇所、砂防74箇所、道路2,550箇所被害が発生。総被害額130億7千万円、公共土木施設被害額72億5千万円。〔災害年報〕
昭和58	1983	7/20-23	梅雨前線豪雨。死者103名、行方不明者4名、重軽傷者159名。住家全壊939棟、流失125棟、半壊1,977棟、一部破損563棟、床上浸水6,953棟、床下浸水7,043棟。河川6,697箇所、砂防346箇所、道路9,894箇所被害が発生。総被害額4,020億7千万円、公共土木施設被害額2,518億2千万円。〔災害年報〕
昭和60	1985	6/21-7/14 7/15	梅雨前線による大雨。重軽傷者9名。住家全壊16棟、半壊122棟、破損37棟、床上浸水422棟、床下浸水1,425棟。河川2,806箇所、砂防73箇所、地すべり1箇所、急傾斜地5箇所、道路3,014箇所被害が発生。総被害額425億8千万円、公共土木施設被害額267億8千万円。〔災害年報〕 平田市小伊津地区で2万m ³ の崩壊あり。〔日本の砂防〕
昭和61	1986	6/22-7/22	梅雨前線による大雨。住家半壊2棟、破損9棟、床上浸水11棟、床下浸水196棟。河川117箇所、砂防46箇所、急傾斜地5箇所、道路1,095箇所被害が発生。総被害額139億7千万円、公共土木施設被害額90億3千万円。〔災害年報〕
昭和63	1988	7/13-23	梅雨前線による大雨。死者2名、行方不明者4名、重軽傷者29名。住家全壊71棟、半壊103棟、一部破損255棟、床上浸水1,742棟、床下浸水5,119棟。河川2,555箇所、砂防78箇所、地すべり1箇所、急傾斜地5箇所、道路4,125箇所被害が発生。総被害額892億9千万円、公共土木施設被害額445億8千万円。〔災害年報〕
平成元	1989	9/1-3	豪雨。住家一部破損1棟、床上浸水1棟、床下浸水8棟。河川352箇所、砂防7箇所、急傾斜地2箇所、道路369箇所被害が発生。総被害額31億4千万円、公共土木施設被害額21億9千万円。〔災害年報〕
平成2	1990	8/22-23 9/17-20 9/20	台風14号。死者1名。河川13箇所、道路11箇所被害が発生。総被害額2億3千万円、公共土木施設被害額1億2千万円。〔災害年報〕 台風19号。河川130箇所、砂防2箇所、急傾斜地1箇所、道路87箇所被害が発生。総被害額16億6千万円、公共土木施設被害額12億8千万円。〔災害年報〕 平田市後野地区で地すべり発生。推定移動（不安定）土砂量約16,500m ³ 。
平成3	1991	3/23 6/29-7/5 9/13-14 9/27-28	浜田市内村町一ノ瀬地区で地すべり発生。斜面長さ150m、幅150m、推定崩壊土砂量約30万m ³ 。 梅雨前線による大雨。床下浸水7棟。河川106箇所、道路320箇所被害。総被害額37億6千万円、公共土木施設被害額18億3千万円。〔災害年報〕 台風17号。軽傷者1名。住家一部破損4棟、床上浸水137棟、床下浸水245棟。河川89箇所、砂防2箇所、道路67箇所被害が発生。総被害額29億円、公共土木被害額18億1千万円。 台風19号。死者1名、重軽傷者102名。住家全壊10棟、半壊176棟、一部破損29,878棟、床下浸水12棟。河川8箇所、道路75箇所被害が発生。総被害額155億8千万円、公共土木施設被害額3億5千万円。〔災害年報〕

元号	西暦	事	項
平成 4	1992	4/28	13時18分、仁多郡横田町にて林野火災が発生。被害面積25.0ha、被害額2千万円。22時10分に鎮火。【災害年報】
		7/14	梅雨前線による大雨。床下浸水15棟。河川5箇所、砂防1箇所、道路20箇所被害が発生。総被害額1億5千万円、公共土木施設被害額7千万円。【災害年報】
		7/18 8/8-9	平田市後野地区で地すべり発生。推定移動（不安定）土砂量約72万m ³ 。 台風10号。住家一部破損6棟、床下浸水23棟。河川10箇所、道路34箇所被害が発生。総被害額8億3千万円、公共土木施設被害額3億円。【災害年報】
平成 5	1993	6/28-7/3	梅雨前線による大雨。河川621箇所、砂防2箇所、道路856箇所被害が発生。総被害額95億円、公共土木施設被害額51億円。【災害年報】
		7/11-14	梅雨前線による大雨。住家一部破損4棟、床上浸水18棟、床下浸水123棟。河川159箇所、道路211箇所被害が発生。総被害額51億9千万円、公共土木施設被害額22億8千万円。【災害年報】
		7/12-13	北海道南西沖地震による津波。西郷では13日0時27分に27cm、浜田では13時29分に28cmが観測された。【災害年報】
		9/2-4	台風13号。軽傷者4名。住家全壊1棟、一部破損12棟、床上浸水99棟、床下浸水225棟。河川651箇所、砂防4箇所、道路729箇所被害が発生。総被害額124億円、公共土木施設被害額69億7千万円。【災害年報】
平成 6	1994	6/27-28	梅雨前線豪雨。河川131箇所、道路8箇所被害が発生し、総被害額8億7千万円。【災害年報】
		9/29-30	台風26号。河川9箇所、道路26箇所被害が発生。総被害額2億6千万円、公共土木施設被害額1億1千万円。【災害年報】
平成 7	1995	7/2-6	梅雨前線による豪雨。住家半壊1棟、一部損壊1棟、床上浸水1棟、床下浸水27棟。河川175箇所、砂防3箇所、道路192箇所被害が発生。総被害額30億5千万円。公共土木施設被害額21億6千万円。【災害年報】
		7/20-21	豪雨。死者1名。住家全壊2棟、半壊2棟、一部損壊9棟、床上浸水89棟、床下浸水458棟。河川1617箇所、砂防13箇所、道路418箇所被害が発生。総被害額122億3千万円、公共土木施設被害額71億7千万円。【災害年報】
		8/30	豪雨。軽傷者1名。住家全壊1棟、半壊1棟、一部損壊11棟、床上浸水5棟、床下浸水138棟。河川83箇所、砂防15箇所、道路197箇所被害が発生。総被害額23億4千万円、公共土木施設被害額14億7千万円。【災害年報】
平成 8	1996	6/24-26	豪雨。住家一部損壊8棟、床下浸水38棟。河川332箇所、砂防1箇所、急傾斜地4箇所、道路231箇所被害が発生。総被害額52億3千万円、公共土木施設被害額27億8千万円。【災害年報】
平成 9	1997	6/25	山口県北部でM6.1の地震が発生。住家一部損壊3棟、総被害額2千万円。【災害年報】
		6/27-28	台風8号。死者1名。住家一部損壊20棟。床下浸水5棟。河川234箇所、砂防3箇所、道路177箇所被害が発生。総被害額41億4千万円、公共土木施設被害額13億7千万円。【災害年報】
		7/7-13	梅雨前線豪雨。住家全壊1棟、半壊4棟、一部損壊8棟、床上浸水14棟、床下浸水593棟。河川493箇所、砂防13箇所、道路577箇所被害が発生。総被害額122億円、公共土木施設被害額55億4千万円。【災害年報】
		7/12	梅雨前線豪雨により平田市布勢川で土石流発生。山腹崩壊土砂量約9万6千m ³ 、流出土砂量2万1千m ³ 。住家全壊1棟、床上浸水1棟。非住家全壊2棟、半壊1棟、床上浸水2棟。
		7/26-29	台風9号。住家全壊5棟、半壊2棟、一部損壊8棟、床上浸水3棟、床下浸水69棟。河川418箇所、砂防15箇所、道路592箇所被害が発生。総被害額125億4千万円、公共土木施設被害額83億9千万円。【災害年報】
		9/16-17	台風19号。住家床上浸水2棟、床下浸水21棟。河川185箇所、道路34箇所被害が発生。総被害額16億4千万円、公共土木施設被害額10億3千万円。【災害年報】
平成10	1998	8/8-10	梅雨前線による大雨。住家一部損壊4棟、床上浸水3棟、床下浸水161棟。河川53箇所、砂防22箇所、道路92箇所被害が発生。総被害額23億6千万円、公共土木施設被害額14億7千万円。【災害年報】
		10/17	台風10号。住家全壊4棟、半壊2棟、一部損壊23棟、床上浸水12棟、床下浸水50棟。河川379箇所、砂防1箇所、道路257箇所被害が発生。総被害額62億5千万円、公共土木施設被害額24億9千万円。【災害年報】
平成11	1999	6/28-7/4	低気圧の影響による大雨。死者1名。住家一部損壊5棟、床上浸水9棟、床下浸水118棟。河川373箇所、砂防8箇所、道路274箇所被害が発生。総被害額62億3千万円、公共土木施設被害額27億5千万円。【災害年報】
		9/24	台風18号。重軽傷者4名。住家全壊1棟、半壊3棟、一部損壊36棟、床上浸水15棟、床下浸水580棟。河川188箇所、砂防12箇所、道路122箇所被害が発生。総被害額83億1千万円、公共土木施設被害額33億2千万円。【災害年報】
平成12	2000	10/6	鳥取県西部地震。鳥根県東部を中心に、住家全壊34棟、半壊543棟、一部損壊3,477棟。河川21箇所、道路43箇所、急傾斜地1箇所被害が発生。総被害額51億7千万円、土木関係被害額11億4千万円。【鳥取県西部地震】による本県の被害状況について（47報）

元号	西暦	主 な 災 害	
平成 13	2001	6/18 ~ 24	梅雨前線豪雨。隠岐を除く県下全域で被害。箇所数 339 件、査定決定額 1,456 百万円。
		9/13 ~ 15	豪雨。雲南・邑智地区を中心に被害。箇所数 72 件、査定決定額 253 百万円。
平成 14	2002	1/8	冬期風浪。益田地区を中心に海岸災害が発生。箇所数 8 件、査定決定額 2,072 百万円。 なお、近年では最も被害件数が少ない年（県全体 24 件）であった。
平成 15	2003	5/30 ~ 6/1	38 年ぶりに 5 月の上陸となった台風第 4 号により県下全域で被害。箇所数 63 件、査定決定額 285 百万円。
		7/10 ~ 12	梅雨前線豪雨。県東部を中心に被害。箇所数 187 件、査定決定額 1,094 百万円。
平成 16	2004		平成 16 年は夏から秋にかけて記録的な集中豪雨やこれまでの記録を大幅に更新する 10 個の台風が上陸し、これらの影響により全国的に甚大な被害が発生した。
		8/1 ~ 2	台風第 10 号。出雲・邑智地区を中心に被害。箇所数 71 件、査定決定額 409 百万円。
		9/7	台風第 18 号。隠岐や県西部を中心に被害。箇所数 113 件、査定決定額 475 百万円。
		10/19 ~ 20	台風第 23 号。県東部を中心に被害。箇所数 173 件、査定決定額 1,014 百万円。
平成 17	2005	7/1 ~ 4	梅雨前線豪雨。県東部を中心に被害。箇所数 509 件、査定決定額 1,612 百万円。
		9/5 ~ 7	台風第 14 号。県西部を中心に被害。箇所数 118 件、査定決定額 893 百万円。
平成 18	2006	7/15 ~ 22	梅雨前線豪雨。県下全域で被害。箇所数 2,830 件、査定決定額 19,223 百万円。 この災害は「平成 18 年 7 月豪雨」と命名され、戦後 5 番目となる未曾有の大災害となった。

元号	西暦	主な災害	
平成 19	2007	8/28 ~ 31	<p>7 ~ 8月は局地的な集中豪雨が頻繁に発生した。8月31日未明には、低気圧を伴う発達した前線の影響で、島根県観測史上最大となる時間雨量 131 mmを記録するなど、隠岐地区では記録的な大雨に見舞われ、甚大な被害が発生した。</p> <p>豪雨。隠岐地区を中心に被害。箇所数 424 件、査定決定額 3,727 百万円。</p>
平成 20	2008	2/23 ~ 24	<p>冬期風浪。浜田地区を中心に港湾災害が発生。箇所数 6 件、査定決定額 690 百万円。</p> <p>なお、平成以降では最も被害額が少ない年（県全体 1,010 百万円）であった。</p>
平成 21	2009	1/12	<p>冬期風浪。浜田・益田地区を中心に海岸災害が発生。箇所数 3 件、査定決定額 146 百万円。</p>
		7/17 ~ 21	<p>梅雨前線豪雨。隠岐地区を除く県内全域で被害が発生。箇所数 609 件、査定決定額 2,531 百万円。</p>
平成 22	2010	7/10 ~ 15	<p>梅雨前線豪雨。益田・隠岐地区を中心に県内全域で被害が発生。箇所数 184 件、査定決定額 857 百万円。</p>
平成 23	2011	5/10 ~ 12	<p>停滞前線による豪雨により県内全域で被害が発生。箇所数 149 件、査定決定額 545 百万円。</p>
		9/1 ~ 4	<p>台風第 12 号。松江・雲南地区を中心に被害。箇所数 249 件、査定決定額 1,559 百万円。</p>
平成 24	2012	7/4 ~ 7	<p>梅雨前線豪雨。出雲・雲南・県央地区を中心に被害。箇所数 459 件、査定決定額 1,626 百万円。</p>
平成 25	2013	7/28 ~ 29	<p>豪雨。7/28 に津和野町で累計雨量 381 mm、最大時間雨量 91 mm を記録。益田・津和野・吉賀を中心に被害が発生。箇所数 218 件、査定決定額 4,721 百万円。</p>
		8/23 ~ 25	<p>豪雨。県央・浜田地区を中心に県内各地で被害。箇所数 1,365 件、査定決定額 11,276 百万円。</p> <p>7 月から 8 月にかけて複数回の特別警報に匹敵する豪雨により、県央・浜田・益田地区に大きな被害をもたらし、1 市 3 町が局地激甚災害に指定。平成 25 年全体では 2,018 件、査定決定額 17,929 百万円で、平成以降 2 番目の被害となった。</p>

元号	西暦	主な災害	
平成 26	2014	8/15 ~ 18	豪雨。出雲・雲南・県央地区を中心に被害。箇所数 48 件、査定決定額 159 百万円。
		10/12 ~ 14	台風第 19 号。雲南市・隠岐の島町を中心に被害。箇所数 6 件、査定決定額 117 百万円。
平成 27	2015	7/16 ~ 17	台風第 11 号。箇所数 1 件、査定決定額 34 百万円。
		8/12 ~ 13	豪雨。箇所数 8 件、査定決定額 21 百万円。 上記を含めて平成 27 年全体では、箇所数 20 箇所、査定決定額 283 百万円であったが、これは平成となってから最も少ない査定額であった。
平成 28	2016	7/3 ~ 5	梅雨前線豪雨。雲南・県央・浜田地区を中心に被害。箇所数 229 件、査定決定額 1,648 百万円。 6 月下旬から 7 月上旬の梅雨前線豪雨などにより県内各地で被害。
平成 29	2017	7/4 ~ 5	梅雨前線豪雨。邑南町・浜田市・益田市を中心に被害。箇所数 256 件、査定決定額 3,376 百万円。 梅雨前線に伴う線状降水帯による豪雨で 5 日早朝、浜田市、益田市、邑南町、津和野町に大雨特別警報が発表。この豪雨をはじめ、7 月末から 9 月にかけての豪雨、台風第 18 号、台風第 21 号の接近により、県内各地の河川・道路で大きな被害。 平成 29 年全体では 377 件、4,546 百万円の査定決定額。この 10 年で 2 番目に大きな被害。
平成 30	2018	4/9	地震。県西部を震源とする M6.1 の地震が発生。大田市で震度 5 強を記録。大田市を中心に被害。箇所数 25 件、査定決定額 265 百万円。
		6/28 ~ 7/1	梅雨前線豪雨。県内各地で被害。箇所数 39 箇所、査定決定額 809 百万円。
		7/5 ~ 8	梅雨前線豪雨。県央地区を中心に県内各地で被害。箇所数 156 件、査定決定額 1,963 百万円。
		9/29 ~ 10/1	台風第 24 号。松江・雲南・出雲地区を中心に被害。箇所数 104 件、査定決定額 879 百万円。 梅雨前線では江の川支流の八戸川の堤防決壊など、県央地区を中心に甚大な被害。平成 30 年全体では 403 件、4,910 百万円の査定決定額。この 10 年で 2 番目に大きな被害。

元号	西暦	主な災害	
令和元 (H31)	2019	7/18 ~ 19	梅雨前線豪雨。飯南町・出雲市を中心に被害。箇所数 10 件、査定決定額 112 百万円。
		8/27 ~ 29	秋雨前線豪雨。雲南・浜田地区を中心に被害。箇所数 23 件、査定決定額 174 百万円。 上記を含めて令和元年全体では、箇所数 41 箇所、査定決定額 370 百万円であったが、これは平成となつてから平成 27 年に次いで少ない査定額であった。
令和 2	2020	6/13 ~ 14	梅雨前線豪雨。雲南地区を中心に被害。箇所数 98 件、査定決定額 539 百万円。
		7/13 ~ 16	梅雨前線豪雨。松江・雲南・県央・浜田地区を中心に被害。箇所数 107 件、査定決定額 898 百万円。 「令和 2 年 7 月豪雨」など梅雨前線等による一連の災害は激甚災害に指定。
		8/7 ~ 9	豪雨。隠岐の島町で被害。箇所数 94 件、査定決定額 1,339 百万円。隠岐の島町が局地激甚災害に指定。
		9/5	台風第 10 号。松江市・雲南市で被害。箇所数 37 件、査定決定額 293 百万円。 令和 2 年災害では 7 月の豪雨により、平成 30 年に続き、川本町・美郷町・江津市において江の川流域で浸水被害が発生。 令和 2 年全体では、360 件、3,244 百万円の査定決定額であった。
令和 3	2021	7/4 ~ 13	梅雨前線豪雨。県東部を中心に甚大な被害。箇所数 1,231 件、査定決定額 17,666 百万円。 雲南市・飯南町が局地激甚災害に指定。
		8/7 ~ 10	台風第 9 号。隠岐地区及び県西部を中心に被害。箇所数 307 件、査定決定額 3,873 百万円。 台風から温帯低気圧に変わった後も勢力を維持し、日本海へ。 9 日明け方に隠岐地方に線状降水帯が発生し、非常に強い降雨。
		8/12 ~ 18	豪雨。停滞した前線の影響により県内各地で被害。箇所数 172 件、査定決定額 2,419 百万円。 広島県の江の川流域で激しい雨を観測した後、14 日は江の川下流の江津市・美郷町・川本町で河川が氾濫。 台風第 9 号を含む 8 月の豪雨では、隠岐の島町・西ノ島町が局地激甚災害に指定。

元号	西暦	主な災害	
令和4	2022	7/16 ~ 19	令和3年発生災害全体では、箇所数1,713件、査定決定額24,014百万円で平成以降では最大の額。昭和30年以降においても、昭和58年、昭和63年、昭和60年に次いで大きな額となった。
		9/18 ~ 19	豪雨。県西部を中心に29箇所、査定決定額315百万円の被害。台風第14号。19日に出雲市付近に上陸し、23箇所、査定決定額496百万円の被害。この影響により、高津川が大雨により増水し、益田市内の水位観測所では氾濫危険水位を超える箇所が発生。令和4年発生災害全体では、箇所数73件、1,327百万円の査定決定額であった。
令和5	2023	7/7 ~ 11	梅雨前線豪雨。8日には線状降水帯が発生。松江市、出雲市、益田市の河川が氾濫し、河川、道路等で多数の被害。箇所数125件、1,573百万円の被害が発生。
		9/5 ~ 6	豪雨。隠岐郡海士町で「記録的短時間大雨情報」が発表されるなど局地的な大雨。松江、雲南、隠岐で災害が発生。箇所数13件、査定決定額62百万円。令和5年発生災害全体では、箇所数156件、1,847百万円の査定決定額であった。